

tour title : Aru Sustainable Study Tour 2025

『淀川流域百年の計を考える』

—100年から1000年へ、人と流域の共構築—



introduction

かつて、大阪の地は海だった。そこから、隆起するように立ち上がってきたこの地は、常にフォルム化とアンフォルム、既成概念の破壊と再構築、変容を繰り返しながら、出来上がってきた創造的都市でもある。今から遡ること百年前。国内外との交易のために、あるいは、度重なる洪水からの解決策として、日本とオランダの共同設計により琵琶湖から大阪湾、瀬戸内を流れる水を一本の道として接続し再構築された“淀川”。水を起点に見ていくと、大阪はすべての都市や世界を越境しあい、つながる重要なネットワークの拠点として常に再構築されてきた都市であることが見えてきた。100年後の今。都市や社会の在り様をニュートラルに、エクイティに捉え直し、常に目の前の当たり前を覆す視点をもって、あらゆる関係性の問い直しを大阪の地から、私たちは再び始めていきたい。

——「淀川、100年の物語」text Atsuko Ogawa（ロフトワークAruSociety，2025）より

About：Aru Sustainable Study Tourとは

未来への価値や視点はこれからどのように変化していくのか？

都市のあり方はどのように変わっていくべきなのか？

そのための問いをどのように醸成していくのか？

当たり前になっていたものの見かたを問い直しながら、

新たな可能性への水脈を導き出していく。

Aru Societyは、100年後からそれ以上先の未来に向けて、『共に在る社会』について考えるプロジェクトです。その過程をより具体的に進めていくために、暮らし・産業・文化・都市などの根底に流れる「土地や地域とその歴史に根ざした自然観・社会観」の文脈を歴史的に紐解き、理解して、未来につなげていくことを何よりも大切にしています。変わらない/変えてはならない本質的価値は何か？まずはそれを見定めることを目指し、見いだされた本質的価値を基盤として、未来に向けて私たちが変わるべき部分の道筋を見いだしていくことを重視しています。そのとき、人間が自然や土地を資源として搾取的に利用することが増えていた近現代のあり方は見直され、100年からそれ以上、たとえば1000年ほどの長いタイムラインから、それぞれの地域の、人と自然の持続的な相互作用の関係を学び、そしてこれからはよりよい土地と自然を人の営みが造り出していく、ということを考える必要があるのではないのでしょうか。それは、過去・現在・未来の時間と、「人を含む自然」を、私たちがより活き活きと元気づけられる、そのような“未来への水脈”を、共に考え、創造していくことでもあります。今回のプロジェクトでは、人の暮らしや都市の歴史が長く紡がれてきた淀川流域を起点に、それを考え始めたいのです。

ここで産業側の視点に立つと、世界情勢や地球環境問題がより混沌を極めていくなかで、社会的価値の創出と経済的価値の創出をいかに結びつけ、またそれをいかに次の時代や世代へと受け渡していくことができるのかや、企業の価値を持続的に発展させていくことの意義、そのために企業という法人はどうあるべきか、どう生きるべきかなど、いま、企業そのもののや、産業全体のありようが非常に問われている時代です。そして、企業や各産業の存在意義や今後の指針を導き出すためには、先人たちがいかに環境的・社会的逆境を経験し、またそのことと折り合いながら、持続可能な社会との関係や産業のありようを連綿と生み出し続けてきたかを、「土地や地域とその歴史に根ざした自然観・社会観」を基盤におきながら眺めなおすと共に、われわれに全てを与えてくれる土地や地域という原点に立ち還って考えることにこそ、大きなヒントがあるように思うのです。

私たちは、その方法論の一つとして、Aru Sustainable Study Tour を2024年より実施しています。昨年度実施した京都嵯峨野地域と天王山でのツアーを、本年は、土地、地域、歴史、暮らし、産業、文化、都市などを相互につなぐ観点にもとづく事前リサーチやスタディを含めて、よりパワーアップした形で、Aru Sustainable Study Tour シリーズ 2025『淀川流域百年の計を考える』と題してお届けします。また、このシリーズは今後、「—100年から1000年へ、人と流域の共構築—」というビジョンのもとに続けていく予定です。「共構築」とは、人と自然が互いに互いをつくりあい、相互作用を及ぼしながら、双方がより望ましい状態になることをイメージしたことです。

*Aru Sustainable Study Tourのテーマ、主旨文、プログラムは、京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 准教授 松田法子さんとロフトワークが共同で作成しています。



Research & Study 「淀川流域百年の計を考える」—100年から1000年へ、人と流域の共構築—

「百年」というタイムスパンとは何か？

川にとっての百年と人によっての百年の違いと接点を結びつける、4つのスコープ。

1. 淀川三川合流地点を起点に、淀川及びその流域とは何かをリサーチし、把握する。
2. 地球規模の社会課題解決や、持続可能な都市・地域・産業のあり方を考える前提を学ぶ。
3. この地に誕生して百年になる山崎蒸溜所をもつサントリーの、「水と生きる」天然水の森活動の背景にあるCSV経営について把握する。
4. 「共に在る」CSV経営と、ビジネスエコシステムの関係性について学ぶ。

Tour Program

- 日時：2025年11月1日～11月3日（全行程3日間）
- 参加者：社会的価値創出や環境価値創出を経済的価値の創出とむすびつけ、自社事業の取り組みとして実施、または、重要視する企業や研究者の方々を主対象とさせていただきます。
- 参加費用：全日程6万円、1日間のみの参加3万円。懇親会費用別途、交通・宿泊については別途各位手配を前提としておりますので、各位事前のお手配をお願い致します。
- 荷物について：本ツアープログラムは野外での実施となりますので、大きな荷物を持って歩くことはとても大変です。大きな荷物は開催場所近くの駅のロッカーかロッカーの数に余裕のある京都駅等、あるいは、宿泊先のホテル等に事前に預けていただくことをお勧めします。紛失等を避けるためにも貴重品等のお取扱についても各位十分お気をつけください。
- 服装について：茶会を含めて野外を中心としたプログラムです。また、徒歩で移動することがメインになりますので、スニーカーやアウトドア等、野外向けの服装をお勧めいたします。特に足元は歩きやすく疲れにくい、汚れても良いスニーカーがおすすめです。



day1: 11月1日（土）「100年から、1000年へ」京都北嵯峨1200年続く田園風景

topics：田園風景、土壌、テロワール、稲作、茶会、花立て

「稲穂たなびく水田とその山裾の竹林が広がる風景」。ランドスケープデザイナー増永滋生さんと共に北嵯峨の風景や生物多様性を再生させる活動を地域や企業と共に実施再生された田園風景を巡り、参加者と共に茶会のひとときを味わう。1200年続く北嵯峨の田園地帯を中心にスタディツアーを行い、ツアーのために特別に仕立てられた空間にて茶会とラウンドテーブル形式によるディスカッションを行います。



写真は、Aru Sustainable Tour 2024の一環で、北嵯峨竹林にて実施された茶会風景

淀川流域の上流部のひとつである桂川流域に位置する北嵯峨エリアは、「稲穂たなびく水田とその山裾の竹林が広がる風景」として、京都市自然景観保全地区に指定されている。景観そのものが京都の重要な文化的価値であるが、京都市がそれを定めた重要エリアのひとつである。文化的な景観は自然と人の長い相互作用の時間と営みによって形成されたもので、また、その維持や持続のためには人による手入れが欠かせない。北嵯峨では、地域や企業とも連携した持続可能な自然の再生の仕組みを作ることが必要だという考えのもと、ランドスケープデザイナーの増永滋生さん（[アドプランツユーボレーション](#)）が中心となり、多様な活動が行われている。このエリアでの農業の始まりは、1200年ほど前に秦氏が保津川沿いに堤防をつくって川の氾濫を抑え、かつ水を利用しながら土地を耕したこととあり、それから水田地帯が広がったといわれる。しかし、現在では一次産業の衰退から竹林・水田が放置されて荒廃した環境となり、景観や生物多様性はともに劣化し、地域の自然環境や文化的価値も低下している。これに対して、嵯峨地域農場づくり協議会などの事務局も務める増永氏は、水田・竹林・アカマツ林が広がる“京都・嵯峨野”の重層的な環境を次世代につなぐため、森づくり活動や「古今嵯峨米」という有機の米作りなどを通じて、嵯峨野の景観や生物多様性を再生させる活動を地域や企業と共に実施している。なお、北嵯峨の景観は京都の郊外に共通するものでもある。同地での取り組みのプロセスや背景を紐解きながら、無理のない持続性の根幹を支える営みとは何かを、ミクロ/マクロ双方の視点から把握する。

timeline

- AM 10:30 [JR嵯峨嵐山駅](#)に集合
 - *大きなお手荷物は嵯峨嵐山駅・JR京都駅のコインロッカーに事前に預けてください。
 - *お手洗いは、駅のトイレで事前に済ませるか、大覚寺の公衆トイレをお借りする形となります。
- 徒歩にて移動[map](#)



- AM 11:00 [北嵯峨田園地帯入り口に移動](#)（京都市自然景観保全地区）、ランドスケープデザイナーの増永滋生さん（[アドプランツコーポレーション](#)）と合流
- AM 11:00～12:30 増永さんの案内により北嵯峨の景観保全・再生プロセスの全体像について把握する。

Thema_topics

- 淀川流域としての桂川について、生物多様性と歴史の観点から把握する
- 森と川と水のつながりを風景から考えることについて
- 田園地帯の土壌再生、竹林の再生のプロセスについて
- 北嵯峨というテロワールを歴史・自然から捉え直す
- 風景を文化として捉え直すとはどのようなことなのか
- 風景を再生させていくためのプロセスと考え方
- 農業という文化を捉え直す
- PM 12:30 田園風景の中での花人 杉謙太郎さんによる花立てと茶会（野点）
 - 12:30～13:30 花たて：杉謙太郎さん花たては田園地帯1箇所、茶会会場となる田園地帯1箇所の2箇所で実施予定



- 13:30～14:30 茶会（野点）むしやしない
 - 茶：福田 拓未さん（FabCafe Osakaカフェマネージャー）
 - 食：川浪典子さん（mont table代表）
- PM 14:30 Round Table Disscation 「100年から、1000年へ」
 1200年もの間、長きに渡り、自然と人が共につくりあげてきた田園風景のなかで、この地の湧水で淹れたお茶を味わいながら、増永さんを囲み、参加者の方々と共に語り合います。
 - ・茶：福田 拓未さん（FabCafe Osakaカフェマネージャー）
 - ・菓：川浪典子さん（mont table代表）

Thema_topics

- ・特別ゲスト：大山崎町歴史資料館・館長 福島克彦さん
 - 淀川流域を歴史、文化的にどのように捉えるか？
 - 桂川流域の土壌/テロワールとは何か？
 - 自然と人の永きに渡る営みについて。
 - 100年、1000年という単位で風景を捉え直すことについて。
 - 生物多様性の営みと時間の関係性について。
 - PM 16:00 終了、現地解散、JR嵯峨嵐山駅へ徒歩で向かう
 - 茶会の会場から、駅まで [マップ](#)
- 懇親会の会場は現地集合となりますが、各位ホテルチェックイン手続き等お願いします
- [JR嵯峨嵐山駅から、京都駅まで、16時半発、17時着（30分程度）](#)
 - [JR嵯峨嵐山駅、京都駅経由、大阪駅まで、16時半発、17時半着（60分程度）](#)



- PM 18:30 懇親会（ツアー前夜祭/参加希望者のみ/会場別途手配）

- 実施場所：JR大阪駅より徒歩10分程度（淀川近く）
- 店名：アマルール（バスク料理）
- 場所：大阪市北区堂島2丁目1番16号フジタ東洋紡ビル1階 [マップ](#)
- 料金：1人あたりコース7150円（税込）



day2: 11月2日（日）「人と流域の共構築」サントリー山崎蒸溜所、天王山の森と水

topics：森、土壌再生、水、ウイスキー、淀川三川合流地点

「自然がなければ人間は何もできない」。100年に渡り、サントリーに受け継がれてきたスピリットは、天然水の森の活動にどのように受け継がれているのか。サントリーホールディングス、サントリーパブリシティの案内によって、サステナビリティの本質とその価値の源泉を辿る。



この地に誕生して百年になる山崎蒸溜所をもつ

サントリー「水と生きる」天然水の森活動の背景にあるCSV経営について把握する。

価値とは時間をかけて積み上げられるものであり、そのプロセスにこそ、人が自然の恵みを基盤に育む「文化」の重要な価値がある。「自然がなければ人間は何もできない」。サントリーでは、創業者・鳥井信治郎氏の101年前の意志を今に受け継ぎ、ウイスキーづくりは人間と自然の共生という社会をつくる事業でもあると捉えている。自然と人が共に生きる営みとして、「サントリー天然水の森」の活動について、なぜこのような活動をするに至ったかという活動の経緯やその内容について、これまで20年以上に渡る森の保全、土壌再生、放置竹林の整備等、水を育むための活動やプロセス、その背景にある概念・体系や独自の指標について、どのように形成しているのか[事前レクチャー](#)と合わせて把握する。サントリー独自のCSV経営の活動と、「ウイスキーと真善美～自然界が秘めた香味を解き放つ美味の探求」というサントリーの哲学が同社の企業文化にどのように影響しているのかと、森を維持する活動から製品づくりに至るまで、人間と自然がどのように関わりあい、自社の経

営と製品づくりを支えてきたのか、様々な取り組みの背景を丁寧に取材し、古くからサステナビリティの本質を追求してきたサントリーの企業姿勢に迫る。

●事前共有情報

ツアー特別案内人のサントリーホールディングス株式会社MBC開発研究所 シニアアドバイザー兼サステナビリティ経営推進本部 シニアアドバイザー 山田 健さんへのインタビューについて事前共有をいたします。

記事リンク：https://loftwork.com/jp/finding/aru_suntory_yamada

ーインタビュー記事ー

『多様であることは、なぜ大切なのか？森や畑の中で起こっていること』

山田健さんプロフィール

1955年生まれ。78年東京大学文学部卒業。同年、サントリー宣伝部にコピーライターとして入社。ワイン、ウイスキーなどの広告コピーを手がけるとともに、サントリー「世界のワインカタログ」の編集長や、芸術財団が発行する音楽雑誌の編集長を兼任。2000年に現在の「天然水の森」につながるプロジェクトを企画し、後にコピーライターから転身して自ら山に入り、森と水を守る活動を牽引してきた。

著書に『水を守りに、森へ』（筑摩選書）、『オオカミがいなくなるとウサギが減るのか』（集英社インターナショナル）、『遺言状のオイシイ罫』（ハルキ文庫）、『ゴチソウ山』（角川春樹事務所）、ワインエッセー『今日からちょっとワイン通』（ちくま文庫）などがある。公益財団法人山階鳥類研究所理事、日本ペンクラブ会員。

timeline

- AM 10:00 [JR山崎駅](#)、南側改札前へ集合（改札は1つしかありません）

お手洗いは改札を出る前、改札の左手側にあります。

大きな荷物がある方は、改札口内に設置されているコインロッカーにお預けください。



- AM 10:10～11:00 「水と風土」

ツアー特別案内人の山田健さん（サントリーホールディングス株式会社MBC開発研究所 シニアアドバイザー兼 サステナビリティ経営推進本部 シニアアドバイザー）と共に、大山崎の歴史、生活や風土と水との関連性を把握しながら、[サントリー山崎蒸溜所](#)まで歩く。

（サントリー山崎蒸溜所でのトイレ休憩含む）



- AM 11:00～13:15 天王山に登る ＊軽食昼食用意あり

ツアー特別案内人の山田健さんと共に、サントリー山崎蒸溜所から、その背後にある[天王山](#)に登る。地域や研究者と共にトライアンドエラーを繰り返しながら、どのように課題を設定し最適解を導き出してきたのか。さらに、これから乗り越えるべき課題とは何か。森の再生活動が行われている実際の活動の場において、事前に学んだ情報をもとにしながら、プロセスと全体像について把握し、さらなる課題を乗り越える策について、共に議論する。この地の地形や自然環境の全体を体感し、山頂から三川合流地点を把握する。風土、暮らし、産業、文化、都市を横断する観点から、特に「水」に焦点を当て、水の涵養源である天王山と淀川水との関係、桂川・宇治川・木津川の三つの川が合流して淀川になるという地帯であることが、この一帯にどのような影響を及ぼしてきたのかを把握したい。



- PM 13:30～16:00 [サントリー山崎蒸溜所](#)を巡る ＊ウイスキー試飲あり

森の恵みである水が「自然界が秘めた香味を解き放つ美味の探求」へと変化していくのか。

蒸留所を見学し、サントリーの哲学・真善美をウイスキーとともに味わう。



- PM 16:30 サントリー蒸留所閉館時間
- PM 17:00 現地解散、終了



day3: 11月3日（月）「淀川流域百年の計を考える」

topics：三川合流地点、島本町、大山崎町、自然×都市×風景、都市×産業、ネイチャー×アート×デザイン×テクノロジー×サイエンス＝創造的都市、サステナブル・シティ都市構想ビジョン

<リサーチ共同企画者>

京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 環境科学専攻 准教授 松田法子さん

＊弊社ロフトワークが京都市との共同プロジェクトとして実施した[京都市都市戦略プロジェクト](#)（2023年7月～2024年3月）におけるリサーチ「都市と水」の共同立案等を手掛ける。

<ツアー協力>

島本町、島本町立歴史文化資料館、マクセル株式会社

土地、地域、暮らし、産業、文化、都市を横断する観点から、三川合流地点に位置する山崎・島本地域を把握する。特に「水」に焦点を当て、水の涵養源である天王山と淀川との関係、桂川・宇治川・木津川の三つの川が合流して淀川になる地帯であることが、この一帯にどのような影響を及ぼしてきたかを把握したい。淀川・淀川流域とは何か、自然基盤（地質学・水文学・自然地理学分野など）、人の営みがつくってきた土地の風景・景観（文化的景観分野など）、産業（企業史・自治体史など）、流域の管理・経営（土木・防災分野など）、川の利用（歴史と現在／観光分野など）、それらが絡み合って形成されている文化、都市との関係、またこれらの総体的な歴史（歴史学・空間史学分野など）といった複合的・多層的な観点から探求する。

- AM 9:30 [島本町立歴史文化資料館](#)に集合（[JR島本駅](#) 東口改札を出て徒歩1分）



- AM 9:30～11:00 レクチャー
 - AM 9:30～9:40 イン트로ダクション
speaker：ロフトワーク アートディレクター 小川敦子
 - AM 9:40～10:00 レクチャー（1）
speaker：島本町歴史文化資料館の久保館長
島本町～大山崎の歴史文化、名水や淀川三川合流地域の歴史文化

○ AM 10:00～10:45 レクチャー（2）

speaker：京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 環境科学専攻 准教授 松田法子さん

『淀川流域とエコロジカルプランニング*』

暮らし・産業・文化・都市などの根底に流れる「土地や地域とその歴史に根ざした自然観・社会観」の文脈を歴史的に紐解き、理解して、未来につなげていく。変わらない/変えてはならない本質的価値は何か？ まずはそれを見定め、見いだされた本質的価値を基盤として、未来に向けて私たちが変わるべき部分の道筋を見いだしていくためには、どのように地域、都市を捉え直すことができるのか？

エコロジカルプランニング（開発を行う土地をその敷地の内側だけで眺めるのではなく、その敷地が関係する地域＝regionを認識し、そのユニットの生態学的構造を理解した上で、何ができるのか、あるいは何を避けるべきなのかを判断する等、大きな視点を出発点とする生態的地域計画（地域生態計画）のこと）の観点から流域を捉え直すことの意義について提示。

○ AM 10:45～11:00 map配布、リサーチプロセスの共有

● AM 11:00～15:00 リサーチ実施

○ 11:00～12:30 歴史に根ざした自然観・社会環から島本町、山崎を把握する（90分）

[島本町歴史文化資料館](#)→[水無瀬神宮](#)の地下水や水と暮らしの風景を観る/知る



→[水無瀬川](#)の風景を観る/知る → [離宮八幡宮](#)（ここまで徒歩にて移動、60分）



→山崎駅からタクシーにて移動、若山神社（千年の森）



→三川合流地点展望台（山崎さくらであい館展望塔）より三川合流地点の全体を把握する（車移動、ここまで90分）



- 12:40～13:15 三川合流地点の背割堤の河原にて、ランチタイム

背割堤について：<https://www.city.yawata.kyoto.jp/0000000479.html>

- 13:30～14:45 産業×都市：創造的都市の観点から淀川三川合流地点を把握する

背割堤からタクシーにて移動→マクセル株式会社京都本社



株式会社マクセル執行役員 新事業統括本部長 佐野 健一さんによるご案内

- ・マクセルテクノロジーギャラリー https://www.maxell.co.jp/technology_gallery/

ロフトワークプロデューサー/FabCafe Osaka事業責任者小島和人によるご案内

- ・クセがあるスタジオ <https://www.maxell.co.jp/corporate/kuse-ga-ar-studio.html>



[島本町立歴史文化資料館へタクシーにて移動](#)（車移動、ここまで90分）

- PM 15:00～16:00 [島本町立歴史文化資料館](#)にて

Round Table Discussion（1）

問題提起：仮説の提示をもとにディスカッション

- 仮説の提示ver.1

事前リサーチによる分析にもとづき、三川合流地点のサステナブル・シティ都市構
想「淀川流域百年の計」という仮説を提示する

speaker

- ・株式会社ロフトワーク Aru Society アートディレクター 小川 敦子
- ・株式会社日建設計 都市・社会基盤部門 都市デザイングループ ランドスケープ
設計部長 小松 良朗さん

facilitator

ロフトワークプロデューサー/FabCafe Osaka事業責任者 小島和人

- PM16:00～17:00 [FabCafe Osakaへ阪急電鉄にて移動](#)（水無瀬駅～南森町駅 約50分程度）

FabCafe Osaka/Loftwork 所在地：〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋2丁目2-4



- PM17:00～19:00 Aru 文人煎茶会 / Round Table Disscation（2）

100年後からそれ以上先の未来に向けて、『共に在る社会』について考える。

『淀川流域百年の計を考える—100年から1000年へ、人と流域の共構築—』

- 花たて：杉謙太郎さん
- 日本酒：藤原さん(利き酒士)
- 料理人：吉野雄司さん
- 茶：福田 拓未（FabCafe Osakaカフェマネージャー）
- 話：小島和人

- PM 19:00 終了

新幹線でお帰りの方は

- FabCafe Osaka/Loftworkから、新大阪駅まで
電車移動で20分程度（地下鉄谷町線南森町駅～東梅田駅、地下鉄御堂筋線梅田駅～新大阪駅）
タクシー移動で12分程度

関西圏内でお帰りの方は

- JR大阪天満宮駅、地下鉄南森町駅が最寄り駅（徒歩5分程度）となっております。

